

日本分析化学会第 68 年会

— 講演募集 —

標記年會を 9 月 11 日 (水) から 13 日 (金) の日程で千葉大学西千葉キャンパス (千葉市) において開催します。講演申込及び講演要旨の提出 (入力) にはオンライン登録システム (Web) を使用します。郵送、FAX 及び電子メールでの受付は一切行いませんのでご注意ください。本年会では、一般講演 (口頭発表、ポスター発表)、若手講演 (ポスター発表)、テクノレビュー講演 (口頭発表、ポスター発表) を設けます。本年会から講演要旨は 1 講演 A4 判 1 枚に変更します (募集要項の末尾を参照ください)。講演申込等の詳細は年会実行委員会ホームページ (以下、年会 HP と略) を参照ください。皆様のご参加をお待ちしております。

【日本分析化学会第 68 年会実行委員会 Web サイト (講演申込)】

<http://conference.wdc-jp.com/jsac/nenkai/68/>

【日本分析化学会第 68 年会講演申込スケジュール】

講演申込締切日時： 6 月 6 日 (木) 14 時 (厳守)

講演要旨本文入力締切日時： 7 月 3 日 (水) 14 時 (厳守)

会期 2019 年 9 月 11 日 (水) ~13 日 (金)

日程 9 月 11 日 (水) : 一般講演 (口頭, ポスター), 若手講演 (ポスター), テクノレビュー講演 (口頭, ポスター), 受賞講演, 研究懇談会講演, 特別シンポジウム, 産業界シンポジウム, 産官学連携カフェ, ランチョンセミナー, 機器展示会
9 月 12 日 (木) : 一般講演 (口頭, ポスター), 若手講演 (ポスター), テクノレビュー講演 (口頭, ポスター), 受賞講演, 研究懇談会講演, 特別シンポジウム, 産業界シンポジウム, 学会賞等授賞式, 学会賞受賞講演, 懇親会, ランチョンセミナー, 機器展示会

9 月 13 日 (金) : 一般講演 (口頭, ポスター), 若手講演 (ポスター), テクノレビュー講演 (口頭, ポスター), 受賞講演, 研究懇談会講演, 特別シンポジウム, ランチョンセミナー, 機器展示会

注) 日程は変更する場合があります。

会場 千葉大学西千葉キャンパス [千葉市稲毛区弥生町 1-33, 交通: JR 東京駅・品川駅より総武線快速にて「稲毛駅」で総武線各駅停車に乗り換えて「西千葉駅」下車徒歩 2 分。]

<http://www.chiba-u.ac.jp/access/nishichiba/index.html>

懇親会 9 月 12 日 (木) 19 時~21 時 (予定)

会場 三井ガーデンホテル千葉 [千葉市中央区中央 1-11-1, 交通: JR 千葉駅東口から徒歩 7 分。または JR 千葉駅から千葉都市モノレール 1 号線で「葭川公園」駅下車, 徒歩 2 分]

【募集発表形式】 01: 一般講演 (口頭発表), 02: 一般講演 (ポスター発表), 03: 若手講演 (ポスター発表), 04: テクノレビュー講演 (口頭発表), 05: テクノレビュー講演 (ポスター発表) です。

【講演分類】 別記を参照ください。

【講演申込要項】

1. 講演時間は、一般講演 (口頭発表) は 15 分 (講演 12 分, 討論 3 分) です。テクノレビュー講演 (口頭発表) は 30 分 (講演 25 分, 討論 5 分) で行います。

すべてのポスター発表の時間は 90 分を予定しています。若手講演 (ポスター発表), テクノレビュー講演 (口頭・ポスター発表) の応募の詳細は別記を参照ください。プログラム編成の結果, 講演時間を変更することがあります。

2. 本年会ではすべての口頭発表会場にプロジェクター, RGB ケーブル, PC 切替器, ポインターを用意します。講演者はデータの入ったノートパソコンを持参して講演発表を行ってください。

3. 講演する人 (登壇者) は、講演申込時点において日本分析化学会の個人会員であること (一部の特別シンポジウム講演, 産業界シンポジウム, 産官学交流カフェ, テクノレビュー講演は除く)。会員は 2019 年会費が納入済みであること。個人会員以外で講演を希望する方は、学会 HP からオンラインで学会への入会手続きを先にお済ませください。

<http://www.jsac.jp/nyukai>

4. 同一演題で発表形式を変えて (例えば口頭とポスター発表) 重複講演することは認めません。

5. 関連ある複数の講演 (口頭発表に限る) を連続して発表したい場合 (一連発表) は、講演申込締切までに発表順序を登録してください。但し、発表形式、講演分類が一致している場合に限りです。

6. 発表内容等については、あらかじめ講演申込者の責任で関係機関及び連名者の同意を得てから講演申込を行ってください。発表内容等について問題が生じた場合でも、実行委員会、学会事務局、年会ヘルプデスクは一切の責任を負いません。

7. 発表形式・講演分類の変更、講演日の決定、講演時間の調整など、プログラム編成に関する事項は、すべて実行委員会に一任してください。

8. 会場の都合で、口頭発表をポスター発表に変更する場合、またはその逆の場合は、事前に実行委員会より連絡します。

9. 講演申込者は、上記の各項を了承のうえ、講演申込を行ってください。

講演申込方法 Web 申込に限ります。年会 HP の「Web

申込 要旨本文登録方法」や「図表作成の手引き」を熟読のうえ、講演申込登録及び要旨本文の入力を行ってください。郵送、FAX 及び電子メールでの申込は一切受け付けません。講演申込登録締切日時を過ぎての Web 上からの入力はできません。申込者のコンピュータ環境（ネットワーク環境を含む）が原因で講演申込の登録に不備をきたしても、実行委員会、学会事務局、年会ヘルプデスクは一切責任を負いません。講演申込に関する緊急情報や変更点などのお知らせ、講演申込システム等の障害情報は速報性を考慮してすべて年会 HP（または学会 HP）に掲載しますので、適宜ご覧ください。本誌発行後に登録システムを予告なく変更する場合があります。最新情報等の詳細は年会 HP を参照ください。

【第 68 年会講演申込等スケジュール】

講演申込締切日時：6 月 6 日（木）14 時（厳守）

注）登録締切日時までは講演申込内容の修正、要旨本文入力・修正、画像アップロードが可能です。

要旨本文入力開始日時：6 月 10 日（月）

注）講演要旨本文および画像アップロードが可能です。講演申込内容の修正はできません。

要旨本文入力締切日時：7 月 3 日（水）14 時

【テクノレビュー講演募集】

主催 日本分析化学会第 68 年会実行委員会

期日 9 月 11 日（水）～13 日（金）

会場 千葉大学西千葉キャンパス（年会会場）

講演形式 「発表形式」の欄で“04：テクノレビュー（口頭）”または“05：テクノレビュー（ポスター）”を選択してください。口頭発表は 30 分（講演 25 分、討論 5 分）、ポスター発表は 90 分の予定です。講演要旨は Web 版講演要旨集に掲載します。

講演料 口頭発表：1 件 50,000 円、ポスター発表：1 件 30,000 円。講演料には発表者の参加登録料 1 名分が含まれます。

講演申込方法 一般講演等に準じてオンライン（Web）上からお申し込みください。「発表形式」の欄で、“04：テクノレビュー講演（口頭）”または“05：テクノレビュー講演（ポスター）”を選択してください。登壇者が会員外の場合には、年会ヘルプデスクまでご連絡ください。確認後ヘルプデスクより ID を発行いたします。講演申込・講演要旨入力方法はすべて本年会の講演申込・要旨入力等の諸規則に準じます。

講演申込登録締切 一般講演等と同じ。

【若手講演（ポスター発表）募集】

主催 日本分析化学会第 68 年会実行委員会

共催 全国若手交流会

趣旨 分析化学は自然科学において重要な役割を果たすとともに、産業における技術革新の基盤とな

っています。その一方で、社会において分析化学の重要性を十分に認識してもらうには自らの情報発信が不可欠です。本企画では、分析化学の将来を担う学生及び若手研究者の方々に、自らの研究成果をアピールし、情報交換ならびに交流を深めていただきます。発表形式はポスター発表（90 分）です。ポスター発表に関しては従来通り、若手講演ポスター賞を選出いたします。奮ってご応募ください。

講演形式 「発表形式」の欄で“03：若手講演（ポスター）”を選択してください。

募集対象 概ね 30 歳以下の学生会員及び若手研究者（個人会員に限る）

講演申込方法 一般講演等に準じてオンライン（Web）上からお申し込みください。

詳細は年会 HP を参照ください。

【Web 版講演要旨集の発行日について】

第 68 年会 Web 版講演要旨集の発行日は、2019 年 8 月 28 日です。特許出願の際は、下記の特許庁ホームページを参照のうえ、専門家である弁理士にご相談いただきますようお願いいたします。なお、講演発表者の特許出願にあたり、特許法第 30 条 1 項（発明の新規性喪失の例外）の適用を受けるための手続きが簡素化されています。

詳細は下記の特許庁ホームページを参照ください。

<http://www.jpo.go.jp/indexj.htm>

【特別シンポジウム】

主催 第 68 年会実行委員会

第 68 年会実行委員会では年会開催期間に併せて下記の特別シンポジウムを企画しております。

期日 9 月 11 日（水）～13 日（金）（開催日未定）

場所 千葉大学西千葉キャンパス（年会会場）

1. 分析科学と核酸科学 -相互刺激による相乗的展開-
現在、核酸医薬の研究開発が活況を呈している。また、アプタマー、DNAzyme などの機能性核酸は、核酸医薬、ケミカルバイオロジー、超分子化学、分析化学およびこれらのフィールドを繋ぐインターフェースとして興味深い展開が期待されている。核酸科学研究には昨今の分析技術の発展が大きく貢献しており、また逆にイメージングをはじめとする様々な新しい分析技術の開発に核酸科学が寄与している事実も見逃せない。本シンポジウムでは分析科学を意識・利用して、核酸科学研究を精力的に推進している研究者に講演をお願いした。

2. 生命現象における分析化学

細胞の表現型や機能、細胞内の生体物質・分子情報およびそれらの物質間あるいは細胞間の複雑な相互作用ネットワークに関する情報を定量的・網羅的に獲得するためには、計測科学を意識

したナノテクノロジー、化学、工学、材料科学、情報学、ケミカルバイオロジー等の融合研究が必要不可欠です。本シンポジウムでは、生命科学の融合領域分野でご活躍されている研究者に講演をお願いした。

3. タンパク質を素材とする分析ツールの進化デザイン

タンパク質やペプチドは、センサーやアクチュエータ素材としての秀逸性はもちろんのこと、(1) 遺伝情報としてゲノムに書き込み細胞に持続的に再生産させ続けることができる点、(2) 必要に応じて積極的に改良できる(進化デザインできる)点において際立った特徴を持つ。本特別シンポジウムでは、タンパク質の「進化能」研究を牽引してきた2人の先生にご講義いただき、分析科学ツールの創出を意識してタンパク質デザイン学を推進している話題を4名の研究者に講演をお願いした。

4. プラズマ質量分析計によるナノ粒子の高感度・高速計測

ナノ粒子は、その特異的な化学的性質・反応性を示すことから様々な分野で活用されている。その一方でナノ粒子拡散による環境あるいは生体系への影響も懸念されている。こうした背景から、より高感度かつ迅速なナノ粒子の元素分析法の実用化が期待されている。本シンポジウムでは、ICP質量分析法(ICP-MS法)を用いたナノ粒子計測の分析原理と、イメージング分析、多成分ナノ粒子計測などの最新の応用分析、さらにはナノ粒子の取り扱いに関する国内外の規制・分析動向を紹介する。

5. 講義「分析化学」を魅力的にするには?

平衡論・溶液化学を基礎とした容量分析・分離を基礎とした学部講義「分析化学」を学部学生にいかにも魅力的に伝え、研究室に引き込めるかはみなさん日頃より悩まれていることでしょう。高校での化学知識を定量的にするために数式を並べたり、計算問題にしてしまうと化学の本質や分析化学の面白さが伝えられません。講師の先生方から問題点やその対策、思いなどを熱く語っていただき、会場の皆さんと議論したいと考えます。

6. 社会の公正と安全・安心に貢献する分析化学

(一般公開 参加費無料)

社会秩序を維持するため、市民の安全を守るため、競技の公平性を保つため、様々な分野で分析化学の専門家が活躍しています。本シンポジウムでは、第一線で地道に活躍する研究者より、核物質、化学兵器、ドーピング、危険ドラッグについて、また救急現場や急性中毒で起こる様々な事象についての分析化学的取り組みを披露していただきます。

7. 分析化学のプレゼンスを拡大するキャリアビルディング

(関東支部若手の会主催、一般公開 参加費無料)

分析・計測の研究や仕事に従事している学部生・大学院生・若手研究者・企業若手研究者が、分析化学のアイデンティティをもって学術・産業界で成果を上げて、合成・製造・プロセスの「縁の下の力持ち」であるのみならず、さらにそれらを先導してシーズを与える役割を担うことができる秘訣と期待について、講演者からご経験を踏まえてお話しいただきます。アイデア、実験と実践、ネットワーキングをしてこられた産学の講演者の方々の“轍”を学び、参加者が自身の研鑽をより一層積んでいくことが、学術・産業界全体における分析化学分野の活性化とプレゼンスの拡大につながるでしょう。今後の就職活動をみずえる学生の指導にあたられる教員にも必聴のシンポジウムです。講演者・参加者どうしのネットワーキング(名刺交換会・ミキサーなど)も設ける予定です。

注) タイトル、講師及び開催日などは調整中です。決定しましたら年会HPに掲載します。

【特別公開シンポジウム; 産業界シンポジウム】

主催 日本分析化学会産業界における研究開発と分析ソリューション企画運営委員会・第68年会実行委員会

場所 千葉大学西千葉キャンパス(年会会場)

参加費 無料(一般公開)

参加方法 直接会場へお越しください。

1. 分析部門における産学連携/社外大型設備の活用

日時 9月11日(水) 13時30分~16時30分

最先端の機能性材料の機能発現機構の解明において、産学連携や1企業では所有できない大型設備の利用が重要なポイントとなってきた。J-PARC(大強度陽子加速器実験施設)における中性子利用等の紹介をして頂くとともに各社で実施している大学との共同研究/技術指導などの産学連携事例や放射光施設、電子顕微鏡、大型コンピュータなど社外大型設備の活用事例を紹介し、今後の課題について議論する。

2. AI, MI 時代への期待と課題Ⅱ -企業におけるコンピュータサイエンスの現状-

日時 9月12日(木) 9時20分~12時20分

AI, ビッグデータ時代の活用が本格化し、デジタルトランスフォーメーションの必要性が叫ばれるなか、IoTやマテリアルズ・インフォマティクス(MI)などの導入が進んでいる。昨年に引き続き、産業界各社のコンピュータサイエンスの取り組み事例を紹介し、今後の活用、展開、課題について議論する。

【産官学交流カフェ】

主催 日本分析化学会産官学連携委員会・第 68 年会実行委員会

期日 9月11日(水) 10:00~12:00

場所 千葉大学西千葉キャンパス(年会会場)

日本分析化学会では、分析化学の多様性を活かし、産のニーズと官・学のシーズをマッチングする場を提供し、連携を加速させ、科学・技術における分析化学の重要性や魅力を発信する役割を果たしていきます。そのために、大学教員によるシーズ研究紹介(研究室主宰者による10分程度の話題提供)を行い、産業界の研究者・技術者との交流のきっかけとなる産官学交流カフェを企画しました。また、当日の午後には先述の産業界シンポジウム、夜には産業界シンポジウム運営委員会委員他との合同懇親会を企画しており、さらに詳細な情報交換や議論ができる場を設けます。話題提供の研究室は、年会HPで随時掲載していきますので、ご覧いただき、皆様の参加をお待ちしております。

参加費 無料(一般公開)

参加方法 直接会場へお越しください。

話題提供研究員の募集 上記、研究シーズをご紹介いただく研究室(大学・国研)を募集いたします。お名前、ご所属、連絡先(電話番号、メールアドレス)、200字程度の紹介内容、4から5個のキーワードを添えて、産官学連携委員会代表 早下隆士(上智大理工 ta-hayas@sophia.ac.jp)まで、電子メールで応募ください。締切は6月28日(金)といたします。

【5th Asian Symposium for Analytical Sciences】

—第5回アジア分析科学シンポジウム—

主催 日本分析化学会・第68年会実行委員会

期日 9月11日(水)

場所 千葉大学西千葉キャンパス(年会会場)

講演主題 「Asian MS」

昨年より開催された日本質量分析学会と日本分析化学会との合同企画の一環として、国際質量分析学会等でも招待講演をされるご活躍のアジア圏の方々に、最新のトピックスをご紹介していただきます。

※詳細は年会HPに掲載いたします。

【機器・カタログ展示会及びランチョンセミナー】

機器展示会およびカタログ展示会を開催します。また、年会期間中の昼休みを利用してランチョンセミナーを開催します。応募の詳細は年会HPを参照ください。

問合・申込先 〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4(友野本社ビル)(株)明報社(担当:後藤)〔電話:03-3546-1337, FAX:03-3546-6306〕

E-mail: info@meihosha.co.jp

【第68年会参加登録について】

本年会に参加する場合には、全員参加登録をしていただきます。また、研究発表の登壇者は年会への参加申込登録をしないと講演発表ができませんので、必ず参加登録をしてください(一部の特別講演講師及びテクノレビュー講演者を除く)。参加申込方法の詳細は年会HP及び「ぶんせき」誌7月号に掲載いたします。参加登録料及び懇親会参加費などは以下の通りです。本年会では、ミキサーは開催いたしません。

【参加登録料、懇親会参加費】

1. 参加登録料 予約: 会員12,000円, 学生会員4,000円, 会員外21,000円, 会員外学生7,000円
〔当日: 会員15,000円, 学生会員6,000円, 会員外24,000円, 会員外学生8,000円〕

注) 会員には団体会員(維持会員)に所属する方を含みますが、特別会員および公益会員の場合は、1名に限り会員扱いとなります。

2. 懇親会参加費 予約: 一般9,000円, 学生4,000円
〔当日: 一般11,000円, 学生5,000円〕

ご注意 会員の方の参加登録料は不課税扱いです。会員外、会員外学生は税込金額です。懇親会参加費はすべて税込金額です。

【その他事項】

講演プログラム速報版は年会HPに7月下旬までに掲載予定です。

【宿泊及び託児所について】

1. 宿泊について

最近、千葉及び東京周辺の宿泊予約が取りにくい状況です。宿泊予約を早めに行なってください。実行委員会では、日本旅行千葉支店に宿泊手配を委託しました。希望する方は、年会HPからお申し込みください。

予定申込締切: 8月19日(月)18時

2. 託児所について

第68年会では託児所を開設する方向で準備を進めています。詳細は、年会HPにてお知らせします。

【講演分類一覧】

- 01: 原子スペクトル分析(ICP-MSを含む)
- 02: 分子スペクトル分析(吸光分析法, 蛍光・リン光分析法, 赤外・ラマン分析法, 表面プラズモン共鳴など)
- 03: レーザー分光分析(顕微分光, レーザー励起発光, 光熱変換分光, 非線形分光など)
- 04: X線分析・電子分光分析
- 05: 放射線計測による分析
- 06: 磁場を利用した分析(NMR, ESRなど)
- 07: 電気化学分析
- 08: センサー, センシングシステム
- 09: 熱分析
- 10: 有機微量分析(元素分析を含む)

- 11: 質量分析 (イオン化法を含む)
- 12: マイクロ分析系 (マイクロチップ, マイクロ分離システム, 一分子検出系など)
- 13: フローインジェクション分析
- 14: 液体クロマトグラフィー (LC/MSを含む)
- 15: ガスクロマトグラフィー (GC/MSを含む)
- 16: 電気泳動分析 (キャピラリー電気泳動など)
- 17: 溶媒抽出法, 固相抽出法, イオン交換系
- 18: 分離・分析試薬の設計
- 19: 分析化学反応基礎論 (平衡論, 速度論など)
- 20: データ処理理論 (AI, ケモメトリックスなど)
- 21: 標準試料
- 22: サンプリング, 前処理
- 23: 界面分析 (液液系, 固液系, 気液系, 気固系, 液滴など)
- 24: 微粒子分析および微粒子利用分析 (ナノ粒子など)
- 25: 宇宙・地球に関する分析化学 (天体, 大気, 河川・湖水・海洋, 土壌など)
- 26: 環境関連分析 (環境汚染物質, 環境放射能, 粉じん, SPM, 生体影響物質など)
- 27: 無機・金属材料分析
- 28: 電池・エネルギー材料 (電池材料, 燃料電池材料, バイオマスなど)
- 29: 有機・高分子材料分析 (有機・無機複合体材料を含む)
- 30: 食品・農作物・ヘルスケア等分析 (野菜, 畜産, 食品添加物など, 遺伝子組換え, 農薬, 化粧品, サプリメントを含む)
- 31: バイオ分析 (プロテオーム解析, メタボローム解析, 再生医療にかかわる分析 (細胞, 培地, 足場材, 医療用材料) を含む)
- 32: バイオイメージング
- 33: 医薬分析 (不純物, ドーピング, 代謝物 (ADME), バイオ医薬など)
- 34: 臨床分析 (法科学分析, POCT, 医療用センサ, *in vivo*計測, バイオマーカーを含む)
- 35: 企業における分析解析活用と課題解決への適用
- 36: その他

【各種お問い合わせ先】

1. 学会事務局

会員登録情報の変更, 会員ID・パスワード及び年会全般に関する質問は公益社団法人日本分析化学会事務局へお問い合わせください。

公益社団法人日本分析化学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2

五反田サンハイツ304

E-mail online@jsac.or.jp

電話: 03-3490-3351 (夜間, 土日, 祝日を除く)

2. 年会ヘルプデスク

講演申込などWebシステム, 参加費納入に関する質問は第68年会ヘルプデスクへお問い合わせください。

第68年会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

(株) 国際文献社内

E-mail: jsac-desk@bunken.co.jp

電話: 03-6824-9368

注) 電話対応時間は土日, 祝日を除く営業日の9時~12時, 13時~17時です。

3. 実行委員会

特別シンポジウムと会場等に関する質問は実行委員会へお問い合わせください。

第68年会実行委員会事務局

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学大学院工学研究院共生応用化学コース
藤浪研究室内

実行委員長 藤浪真紀

E-mail: jsac68nenkai@gmail.com

【重要】講演要旨サイズの変更について

本年会から1講演あたりの講演要旨のサイズを従来のA4判1/2頁からA4判1頁に変更します。概略は以下の通りです。詳細は年会HPを参照ください。

- 1) 1講演あたりの講演要旨のサイズはA4判1頁。
- 2) 図表 (画像) が2枚まで掲載可。
- 3) カラー画像も可。
- 4) 画像の有無により入力文字数が変わります。

・画像なし

文字数: 最大2400文字まで

・画像1枚

文字数: 1,600文字まで

・画像2枚

文字数: 1,000文字まで

※文字数 (要旨本文) は全角換算です。画像掲載サイズは縦横80mm×80mmです。

※画像の1枚目は要旨本文右側上部に, 2枚目は1枚目の画像下に固定されます。

4月12日現在